

ふるさと講座・自然系 第2回目

コウモリ観察会



町内には1万頭を超えるコウモリが棲息しています。旧奥行臼駅通所にはウサギコウモリとホオヒゲコウモリが棲みついており、夜になると餌を求めて飛び立ちます。学術調査も兼ねて講師の方にコウモリの生態を解説していただきます。自由に飛び回ることで見られる唯一の、ほ乳類であるコウモリの姿を、間近で見てくださいませんか？

- 日 時 7月19日(金) 午後6時30分～午後8時30分(雨天決行)
- 場 所 国史跡 旧奥行臼駅通所(別海町奥行15番地12)
- 講 師 道東コウモリ研究所 主宰 近藤 憲久 氏
- 内 容 ①コウモリについてお話 ②コウモリの捕獲・計測・観察
- 募集人員 20名(児童・生徒は保護者の方と一緒に参加してください。)
- 受付期間 7月18日(木)まで。電話・FAX・メールにて、お名前・電話番号をお知らせください。
- その他 ① 軍手か手袋、虫除けスプレー、ヘッドライト(お持ちでない方は懐中電灯)を持参してください。
② 当日は現地(奥行臼駅通所)集合になります。車は国道沿いにある駐車場に止めてください。

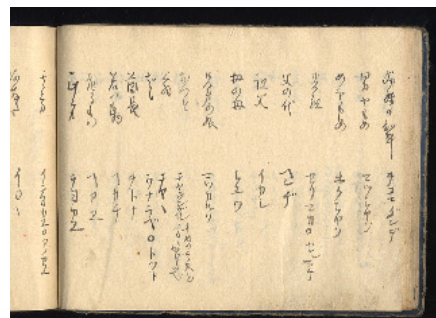


ふるさと講座・歴史系 第3回目 特別企画

「加賀家文書のアイヌ語を読む」

当館所蔵資料「加賀家文書」のアイヌ語について、研究者の方からお話を聞きます。

- 日 時 7月27日(土) 午後1時30分～3時30分
- 場 所 郷土資料館研究室
- 内 容 「加賀家文書のアイヌ語を読む」
- 講 師 北海道大学 教授 佐藤 知己氏
- 募集人員 30名
- 受付期間 7月26日(木)まで。電話・FAX・メールにて、お名前・電話番号をお知らせください。



郷土資料館 ふるさと講座・歴史系 第2回目を実施しました。
明治・大正・昭和、別海町の開拓を支えた交通の要衝
国史跡 旧奥行臼駅通所

- と き 平成25年6月22日(土) 午前10時～12時
- と ころ 郷土資料館・国史跡旧奥行臼駅通所
町指定文化財旧奥行臼駅・旧村営軌道風連線
- ガ イ ド 別海町郷土資料館 学芸員 戸田博史
- 参 加 者 7名

郷土資料館で、旧奥行臼駅通所の説明を聞き、奥行地区に移動し旧奥行臼駅通所をはじめ、関連文化財の見学をしました。

旧奥行臼駅通所では、講師の戸田学芸員、管理人の加藤さんより、建築の経過やその技法、使用していた生活資料などの詳しい話を聞きました。周辺の附属施設の馬小屋・倉庫なども見学し当時の賑わいを感じとっていただきました。

その後、奥行地区の文化財の旧奥行臼駅、旧村営軌道風連線を見学し、かつて利用した参加者もいたようで、興味深いお話を聞くことが出来ました。



別海高等学校インターンシップの受入



6月11日(火)～12日(木)の2日間、別海高等学校3年生の山屋歩夢君がインターンシップに来ました。はじめに郷土資料館の役割や仕事の内容を説明し、館を見学してもらいました。今回の実習内容は、資料のレプリカ作りを通して、資料を観察するということを体験してもらいました。

レプリカを作る資料は、野付半島沖で発見されたマンモスゾウの臼歯化石です。日本では12個しか発見されておらず、その内3個が野付半島沖で発見されているという大変貴重なものです。今回は、3個の中の1個、エキタラウス沖標本のレプリカを作成します。年代測定では、4万3千年前のものであることがわかっています。

シリコンで作った型に石膏を流し込み、固まったら型から外しヤスリ等で形を整えます。その後、アクリル絵の具を使用し着色に入りました。実物をじっくり観察し色を作り、ゆっくりと塗っていきます。時間がなく、途中で終了となりましたが、化石の質感を出した着色に本人も満足行く出来栄となりました。作業に対する集中力もすばらしく、今後の学校・社会生活に活かしてほしいと思います。

別海町郷土資料館だより No.168

発行日 平成25年7月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

事業・調査・準備と毎日目白押しです。問合せも多いうれしい悲鳴をあげています。貴重な講座が続々と開催されますので、ぜひ、ご参加ください。それにしても気温がなかなか上がりません。7月の天気期待しましょう！(K.I)